

3. セッション1

大学教職員セッション

「IT を活用した授業の準備と運用について」

1. 授業スケジュール <資料1>

2. 事前準備について <資料2>

- (1) 学生への通知について
- (2) 学生および教員の登録
- (3) コンテンツの準備について

3. 実施状況について

- (1) ネットワーク接続状況について
- (2) 担当業務について
- (3) 学生の受講姿勢について
- (4) 教員の e-ラーニング操作について
(授業進行の制御と受験結果・点数の確認と学生への説明など)

平成25年度 ITを活用した授業スケジュール

岩手医科大学歯学部3年生に対する授業計画

授業(回) (90分)	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成25年 6月7日(金)	1	高血圧症	高齢者に多く見られる高血圧症を合併した歯科患者への対応法を学習する。 1. 高血圧のWHO分類を概説できる。 2. 高血圧症患者の評価法を説明できる。 3. 高血圧症の合併症を列挙できる。 4. 循環器疾患を有する患者の予備力を評価できる。	・城茂治教授(歯科麻酔学分野)
授業2	平成25年 6月12日(水)	1	高齢化社会 と歯科医療1	超高齢社会を迎えるにあたって歯科医師に必要な社会的背景を学習する。 1. 日本の高齢化率、将来人口推計を概説できる。 2. 超高齢化社会と医療費の三要素の変化について概説できる。 3. 超高齢社会における医療・歯科医療の連携の必要性につ	・城茂治教授(歯科麻酔学分野)
授業3	平成25年 6月14日(金)	1	高齢化社会 と歯科医療2	超高齢社会を迎えるにあたって歯科医師として必要な高齢者について学習する。 1. 高齢者の(身体的、心理的)特徴を列挙できる。 2. 高齢者の機能的変化を列挙できる。 3. 心理的要因、身体的要因、社会・環境要因から老いの変化に付いて概説できる。	・城茂治教授(歯科麻酔学分野) ・近藤尚知教授(補綴・インプラント学講座)
授業4	平成25年 6月19日(水)	1	高齢化社会 とチーム医療	高齢者の特徴を学習する。 1. 高齢者の動画を見て高齢者の身体的特徴を列挙する。 2. 高齢者に多く見られる全身疾患を列挙できる。 3. 高齢者におく見られる疾患の特徴を説明できる。 4. 死因別にみた死亡率の推移から高齢者の疾患について概説できる。	・藤村朗教授(機能形態学分野) ・須和部京介(歯周療法学分野)
授業5	平成25年 6月21日(金)	1	高齢者の口腔疾患	高齢者の口腔の変化、特に口腔乾燥症について学習する。 1. 唾液について概説できる。 2. 口腔乾燥症の成因を列挙できる。 3. 口腔乾燥症による影響を列挙できる。	・熊谷章子助教(口腔外科学分野)
授業6	平成25年 6月28日(金)	1	高齢者の口腔疾患	高齢者の口腔の変化、特に口腔乾燥症について学習する。 1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。 2. 口腔乾燥症の口腔内症状を列挙できる。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明できる	・小林琢也講師(補綴・インプラント学講座)

北海道医療大学歯学部5年生に対する授業計画

授業(回) (80分)	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	到達目標	担当
授業1	平成25年 9月27日(金)	2	超高齢社会と チーム医療1	歯科外来に通院する高齢者像を通じ、高齢者の心理的・身体的な特徴を概説できる。	咬合再建補綴
授業2	平成25年 10月18日 (水)	5	超高齢社会と チーム医療 2	実際に行われている高齢者の歯科診療を通じて、口腔と全身の関連について学習する。高齢者の疾患と死因の特徴について概説できる。	咬合再建補綴

昭和大学歯学部3年生に対する授業計画

授業(回) (90分)	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業1	平成25年 9月10日(火)	1	全身がわかる 歯科医師が なぜ必要か?	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	・片岡竜太教授(歯学教育学) ・弘中祥司教授(口腔衛生学)
授業2		2			
授業3	平成25年 9月17日(火)	1	脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ	脳梗塞を発症し、入院加療の後に、自宅療養中の患者の歯科受診を通して、医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。チーム医療の基本(構成メンバーと役割)および歯科が担う口腔ケアの目的を学ぶ。	・弘中祥司教授(口腔衛生学)
授業4		2			
授業5	平成25年 9月24日(火)	1	口腔乾燥症と疾患①	唾液・唾液分泌機能について、基本的事項をe-learningで学ぶ。基礎疾患を有する患者のシナリオを用いてSmall Group Discussionにより唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	・美島健二教授(口腔病理学)
授業6		2			
授業7	平成25年 10月1日(火)	1	口腔乾燥症と疾患②	グループで課題に対する説明を考え発表する。発表後、e-learningとリソース講義により唾液・唾液分泌における基本的事項の確認、基礎疾患と唾液分泌障害の関連性について理解する。口腔乾燥症の患者に対する口腔ケアについて学ぶ。	・美島健二教授(口腔病理学)
授業8		2			
授業9	平成25年 10月1日(火)	3	口腔診察・検査実習 と疾患	唾液分泌能(ガム、サクソンテスト)、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。異常値が得られた場合、原因や原疾患についてe-learningで学ぶ。これらの検査を活用したD5病棟実習についてリソース講義で学ぶ。	・美島健二教授(口腔病理学) ・田中準一 助教(口腔病理学) ・井上富雄教授(口腔生理学) ・中村史朗講師(口腔生理学) ・望月文字助教(口腔生理学) ・桑田啓貴教授(口腔微生物) ・森崎弘史 講師(口腔微生物)
授業10		4			

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
第3回 ITを活用した教育センターのワークショップ
事務系職員・IT企業の連絡会 議事録

【場 所】 1号館5階カンファレンスルーム 【開始時間】: 15:30 から

【参加者】 内金崎 智事務員（岩手医科大学）、歳桃 淳事務員（北海道医療大学）、片岡竜太教授、馬谷原光織助教、久米徳明課長、山村勇一事務員、乾 さやか事務員（昭和大学）山崎佳哉（昭和大学総合情報管理センター）、佐藤伸平代表取締役、林智取締役副社長（金沢電子出版株式会社）鈴木泰山取締役（株式会社ピコラボ）

1. 各大学の授業実施の報告
 - 1) 6月に実施された岩手医科大学3年生 e-learning 授業実施について、内金崎事務員（岩手医科大学）より報告があった。（別添資料1）
 - 2) 9月に実施された北海道医療大学3年生 e-learning 授業実施について、歳桃事務員（北海道医療大学）より報告があった。
 - 3) 9月に実施された昭和大学3年生 e-learning 授業実施について、乾事務員（昭和大学）より報告があった。また、ITを活用した教育センター事務局の業務・運営について確認を行なった。（別添資料2）
2. e-learning 授業の実施支援について佐藤様（金沢電子出版株式会社）より報告があった。（別添資料3）
 - 1) 運用マニュアルを作成することについて合意した。
 - 2) 26年度版学生・教員名簿運用フォーマットを定め、授業内容（事前学習課題、演習、リソース講義等）を標準化することについて次回教育センターSkype 会議で各WGヘッドに了承をとる。大学毎に変更があった場合は報告を依頼する。
3. VP 授業の実施準備および運営について鈴木様（株式会社ピコラボ）より説明があった。来年9月に行なう昭和大学授業事前準備については、下記項目が検討された。
 - 1) 症例をつくる
 - 2) 時間配分については菅沼教授と連携しながら、ピコラボがコントロールする。
 - 3) 3月くらいまでは症例プロトタイプを作成し、改善を行なう。
 - 4) インフラは現状のまま問題ないが、授業前にPCへインストールが必要なことと、接続の仕方が e-learning 教材とは異なるためオリエンテーションを行なう必要がある。
4. 自由記載問題について
 - 1) 自由記載問題の手動採点問題に対しては、教員が多忙で十分な対応ができていない。（昭和大学）
 - 2) 自由記載問題に対して採点を行わず、学生の感想・意見を教員が確認するものとしている（岩手医科大学・北海道医療大学）
 - 3) 採点が必要な場合はしばらくの間、なるべくキーワードを書き込み授業終了前に到達度を確認する目的で用いる予定。
 - 4) 自由記載問題でピコラボが開発した3つ組問題を今の e-learning システムに組み込み、金沢電子出版株式会社も利用できる旨了承された。 以上

IT 授業実施報告 (岩手医科大学 担当:内金崎)

日程

オリエンテーション	4月10日(水)	マルチメディア教室(有線 LAN)
トライアル	5月20日(月)	3年生講義室(無線 LAN)
講義	6月7日(金)以降	3年生講義室(無線 LAN)

1. 講義内容について

- 第一回 6月7日(金) 「高血圧症」(担当:城教授)
 - 第二回 6月12日(水) 「社会背景(WG3 担当分)」(担当:城教授、近藤教授)
 - 第三回 6月14日(金) 「社会背景(WG4 担当分)」(担当:城教授、藤村教授、須和部研究員)
 - 第四回 6月19日(水) 「社会背景(WG4 担当分)」(担当:須和部研究員、城教授、藤村教授)
 - 第五回 6月21日(金) 「口腔乾燥症(WG1 担当分)」(担当:熊谷助教、小林講師、城教授)
 - 第六回 6月28日(金) 「口腔乾燥症(WG1 担当分)」(担当:小林講師、熊谷助教、城教授)
- ※下線:講義担当者

2. 事前準備について

1) 学生への通知について

- ・4月1日の時点で、3年生にPCを用意してもらう旨通知した。それを受け、4月10日のトライアルではほぼすべての学生がPCを準備して臨むことができた。用意していなかった学生も5月20日トライアルまでには用意できた。

2) 学生および教員の登録について

- ・今年度の講義においては、スケジュール的に非常にタイトであったことから、e-learning システム上への登録は支援企業の担当者をお願いした。来年度以降は学内で対応することが望ましい。

3) コンテンツの準備について

- ・授業の準備については、主に金沢電子出版佐藤様、昭和大学乾様、城教授、授業担当者、内金崎で、skype を利用した打ち合わせを中心に行った。スケジュールの問題もあり、打ち合わせ回数も最小限となってしまったため、講義構成についてはブラッシュアップする余裕がなかった。

3. 実施状況について

1) ネットワーク接続状況について

- ・オリエンテーションは有線接続にて実施したが、トライアル以降は無線接続にて実施した。
- ・序盤は接続に苦慮する学生も多く見受けられ、教員と事務員とでサポートに追われたが、終盤は比較的スムーズに講義を開始することができた。
- ・基本的なコンテンツは、60人程度が一度にアクセスしても動作環境に問題は見受けられなかった。動画については、e-learning 上では公開せずプロジェクターを使用したため、実際に回線に問題が生じるかは未確認である。

2) 担当業務について

- ・授業に係るスライドや資料は先生方に用意して頂き、e-learning を使用するためのマニュアル

ルや ID & パスワードの交付、予備の PC の準備等は事務員が担当した。ネットワークに問題が生じた場合は事務で対応する予定であったが、今回の授業においては大きなトラブルは無かった。

3) 学生の受講姿勢について

- e-learning には興味を持って取り組んでいたように見受けられたが、ID & パスワードや PC そのものを忘れてくる学生がいた。
- 操作方法や利用方法を教員・職員側が完全に理解する前に授業を始めてしまったため、前半の方はスムーズな進行とは言い難く、学生のモチベーションを低下させた可能性がある。
- 学生に気持ちよく IT 教材を使用してもらうには、正答の基準に幅を持たせることが重要である。
- 全ての講義において、事前学習→e-learning→リソース講義→確認テストの構成としたが、初回において学生への説明が不十分であったため、今何を何のためにやっているのか理解できない学生が少なからずいた。
- 2 回目以降は、授業の冒頭で学生に講義の構成を説明するようにしたことで、学習に取り組みやすくなったように思われた。また、1 回目の経験から、2 回目以降の最大の課題は接続の部分であると考えられた。
- 2 回目以降は学生も授業のスタイルに慣れたせいも、自分で進められるようになった。

4) e-learning の操作について

- トライアルにおいて e-learning の簡易マニュアルを配布しており、大半の学生は問題なく操作しているようであった。
- 初回講義においては、間違っって e-learning ではなく電子ポートフォリオにアクセスする学生が散見された。教職員側の説明が不足していた可能性もあり、二つの違いをより明確に学生に伝えるべきであった。

<各役割について>

教 員 講義スライドの準備

事務員 学生・教員の登録情報の提供、簡易マニュアル作成、配布資料作成

業 者 コンテンツの準備、学生・教員の登録

学 生 PC の準備、課題の提出

<その他>

- 今回は初めてだったのである程度は仕方ないが、業者や昭和大学との打ち合わせには授業担当者の先生にも参加してもらうべきであった。
- 新しいコンテンツの進捗状況が分からないまま講義を開始することになったため、先の講義で使用できるように既存のコンテンツについても準備する必要があり、支援企業の方には大変ご迷惑をお掛けする結果となった。もっと全体を把握し、連絡を密に取るべきであった。
- e-learning を使用することに対して、学生への動機づけが不十分であった。

昭和大学 D3, D4 授業実施の報告

2013年11月21日

昭和大学 歯学教育推進室

乾 さやか

1) 昭和大学9月の授業実施について(資料1)

2) ITを活用した教育センターの業務・運営について(資料2)

1. 3連携校で作成したIT教材は「教材プール」に入れる。
2. 各大学は対象学年、授業スケジュールに応じて、「教材プール」から教材を選び、授業用IT教材を作成する。(責任者:各大学授業責任者)
3. それぞれの大学における授業は、各大学が責任を持って運営する。(責任者:各大学教務部, 授業責任者) *
4. 授業終了後、アンケート結果、正答率の情報は各大学が教育センターに送付し、教育センターが集計する。 **
5. 上記の作業が円滑に行えない場合は、教育センターに連絡する。教育センターは必要に応じて、IT業者に支援をお願いする。

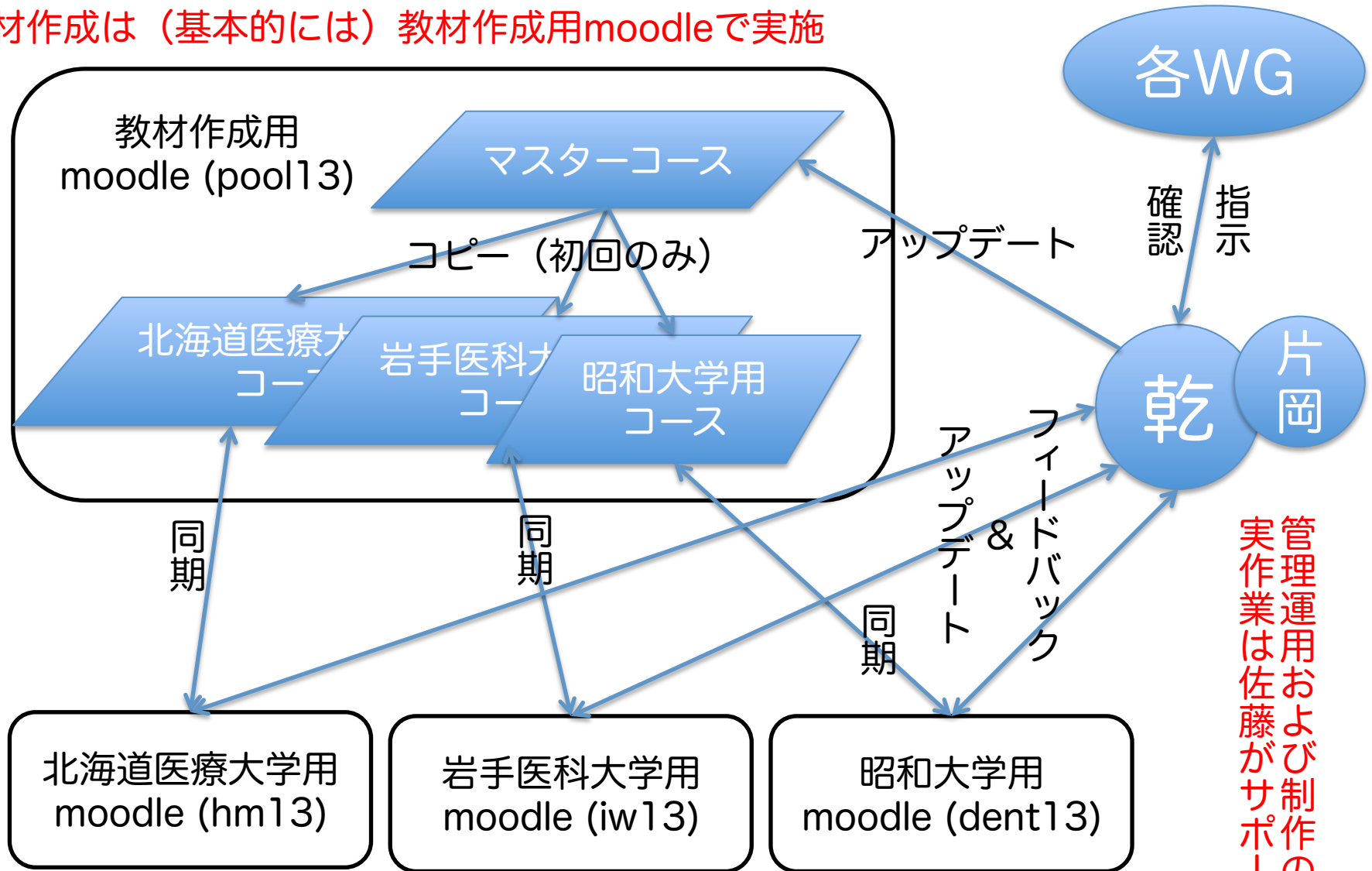
* 学生登録、教員登録は各大学で責任を持って行う。登録方法などが不明な場合は教育センターに連絡をする。教育センターはIT業者に説明をお願いする。

** 教育センターに送付する場合は、学生名は削除し、出席番号のみとする。

3) 授業を実施して感じた問題点について

以上

教材作成は（基本的には）教材作成用moodleで実施



管理運用および制作の実作業は佐藤がサポート

各大学用のmoodleで授業実施およびフィードバック

e-learning 授業の実施支援について

2013年11月21日

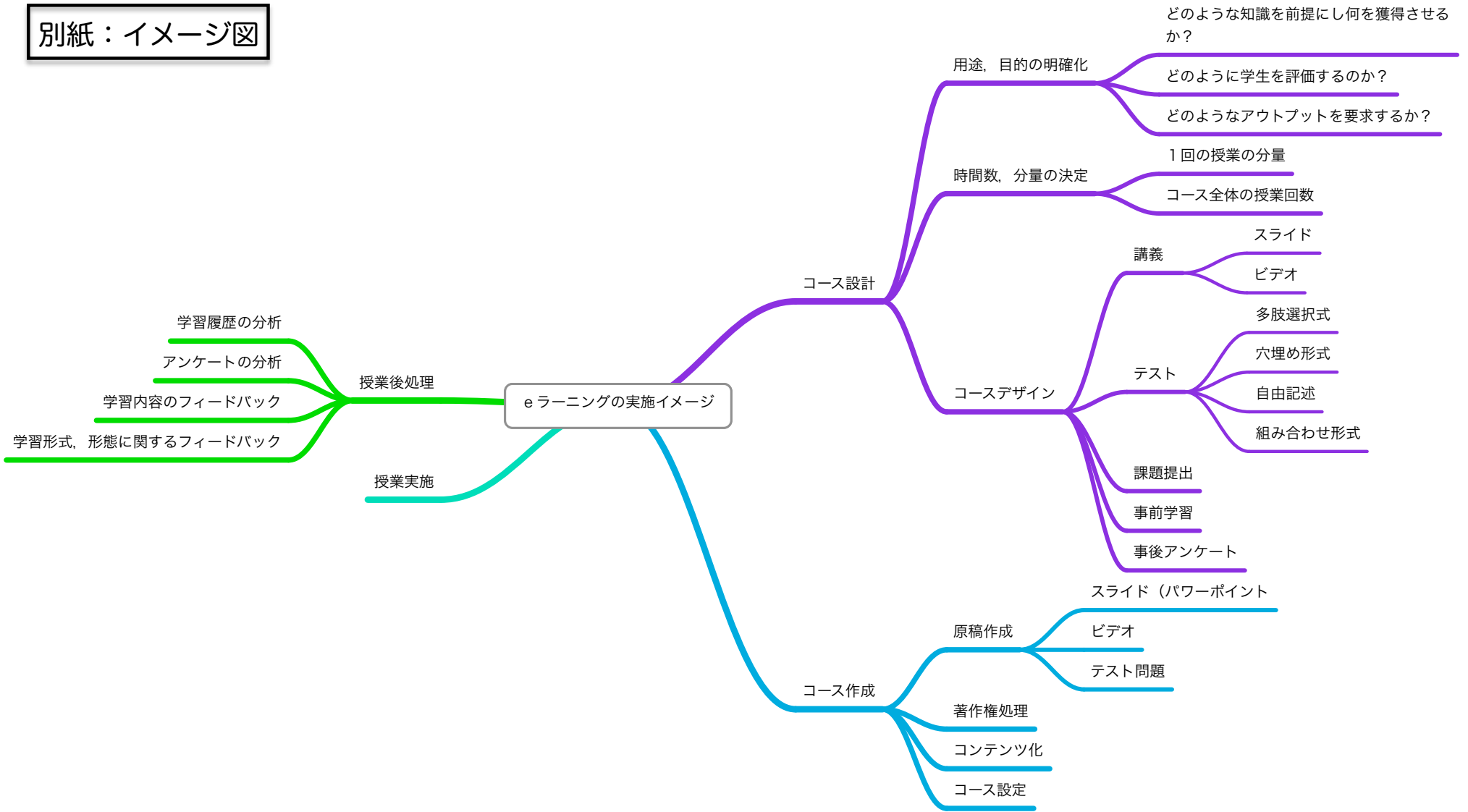
金沢電子出版株式会社

1. eラーニング実施運用のイメージ
(別紙イメージ図を参照)

2. eラーニングシステムに関して
 - ① 教材共有サイト
 - ・ サイト管理：昭和大学，金沢電子出版
 - ・ ユーザー管理；金沢電子出版
 - ・ コンテンツ管理；金沢電子出版
 - ② 各連携大学サイト
 - ・ サイト管理；各大学，金沢電子出版
 - ・ ユーザー管理；各大学
 - ・ コンテンツ管理；各大学

3. サイト間コンテンツの流れ
 - ① 各WGによるコンテンツの作成，改良を教材共有サイトでおこなう
 - ② 利用するコンテンツを各大学サイトにコピーする
 - ③ 各大学サイトでコース作成およびコンテンツ調整をおこなう
 - ④ 各大学サイトで授業実施後にコースを丸ごと教材共有サイトにコピーする

別紙：イメージ図



ワーキンググループ 1

大学教職員セッション 印象記 (グループ 1)

昭和大学 歯学部
口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門 美島 健二

当該セッションでは、岩手医科大学、北海道医療大学そして昭和大学の順で、それぞれの大学における IT 授業の実施状況に関する説明がなされた。また、今回施行された授業における課題と、その解決策について活発な討論が行われた。

岩手医科大学では、3 年生を対象に、1 コマ 90 分、計 6 回、北海道医療大学では、5 年生を対象に 1 コマ 80 分、計 2 回そして昭和大学では、3 年生を対象に、1 コマ 90 分、計 10 回 (内 2 回は実習) が行われた。学生へのアンケート結果から、各大学における授業への評価は、比較的高いことが明らかとなったが、いくつか改善すべき点が示された。

第一点目として挙げられたのが、ネットワークの接続状況に関する問題点についてである。授業の開始時に一度に多数のコンピューターからネットワーク接続が行われるため、特に無線 LAN において接続がスムーズに行われない学生が認められた。また、学生が自身のコンピューターを持ち込み授業に利用する場合には、コンピューターを持参しない学生がみられた。今回は、あらかじめ予備のコンピューターを用意していたため、当該学生における授業の進行に大きな問題は起こらなかったが、事前に学生への周知とトライアルの徹底が必要であると考えられた。

第二点目としては授業の構成についてである。事前学習として、参考資料のみの呈示が行われた大学もみられたが、課題レポートの作成・提出を義務づけることにより、さらに効率のよい学習が可能になるのではとの意見が出された。確かに、事前課題のレポート作成により、学生がより容易に授業へ参加することが可能となりおてもよい試みであると思われる。したがって、次年度の授業では是非取り入れていきたいと考えている。次に、授業内の流れとしては、e-learning 後にリソース講義によるその解説、さらに確認テストの実施による学習到達度の評価を行う方法が各大学において実践されていることが報告された。利用する確認テストについては、e-learning による評価が可能となるよう、自由記載ではなく多肢選択式、正誤問題および穴埋め形式の作成が推奨された。確認テストを行うことにより、授業内容へのフィードバックが可能となり、授業内容の改善が可能となるので、次年度の授業でも基本的には同じ流れで進めていきたいと思われる。加えて、具体的な授業コンテンツについても意見が出され、特に、動画の視聴中に明らかに学生の関心度が高まることがわかり、適度な動画コンテンツの利用が奏功することが再認識された。

以上、3 大学それぞれの授業担当者から、かなり具体性に富んだ改善方法の提案がなされたので、これらの提案を次年度の授業へ取り入れていくことにより、より良い授業が可能になるのではないかと期待された。

ワーキンググループ 2

大学教職員セッション 印象記 (グループ 2)

昭和大学 歯学部
全身管理歯科学講座 歯科麻酔学部門 飯島 毅彦

これまで行われた各大学における e-learning の授業が報告された。これまで具体的な e-learning の方法が不明であったが、実際にはどのような形で行われるかが良く理解できた。e-learning は学生が PC を接続して、各人がそれぞれ解説を見ながら問題を解いていくものである。教員は逐次正答が得られているかを把握することができ、講義の内容をフィードバックすることができる。しかし、様々な問題も浮き彫りになってきた。同じ授業時間でも講義する内容は従来の授業に比べてかなり少なくなること、講義の時間が短く、学生にとってはなぜ登校して集団でこのような授業を受けるか疑問に思うことなどである。e-learning は教員の少ない遠隔地などの教育には利点はあるが、教員のいる大学で行うことが教育効果を高めるかは疑問であった。ただ、学生の理解度などを知ることができるなど利点もあるので今後の教育へいかに生かしていくかを検討していきたい。

ワーキンググループ 3

大学教職員セッション 印象記（グループ 3）

昭和大学 歯学部
歯科保存学講座 総合診療歯科学部門 勝部 直人

本日行われた、大学教職員セッションでは、昭和大学、岩手医科大学、北海道医療大学の3校で昨年実施された IT 授業の報告がなされた。

岩手医科大学の状況は事務の内金崎さんが報告し、昨年6月7日から6月28日まで計6回行われていること、城教授、近藤教授、藤村教授などが授業を担当したこと、リソース講義などでは e-learning の素材だけでなく紙媒体の資料などを配布した方が学生は安心する等の報告がなされた。また、ネットに繋がらない学生がいて授業の導入が遅れたこと、以前行われていた同内容の講義よりも30分近く短縮されたために内容自体をダウンサイジングしたことによって学生は理解しやすかったことなどが追加で報告された。

次に越野教授より北海道医療大学の状況が報告された。同大学では、CBT に使用される教室とパソコンを用いて授業が展開されたが、それでも授業の開始時に接続環境が整うまでに30分を要したこと、第1回目の授業が必修範囲内で行われた為に67名であったのに対して、第2回目は自由参加であった為に48名の受講となったことなどが報告された。また、アンケートの結果より、他の授業と比較してあまり評価が変わらないことが判明し、動画素材の評価は高かったが、残念なことに教材そのものの評価も他の授業とあまり変わらず、新たな知識を得られたかという問いでは低い評価を得たこと、普段学生は IT をメールやチャットなどに使うが、学習にはあまり活用していないことが報告された。

最後に昭和大学の状況に関して弘中教授から報告があり、やはり授業の開始時の接続環境が整うまでに時間を要するとの報告がなされた。また、講義中に授業とは無関係のサイトを見ている学生がいたことや、プリントスクリーンしたものをペーストすることで、レポートを済ませる学生がいたことなどが報告された。

ピコラボ社の鈴木さんより、接続環境を整えるにあたり有線ランであれば問題ないが無線ランでトラブルが多いこと、バーチャルペイシャントではブラウザとしてインターネットエクスプローラーのバージョン11では専用のプラグが機能しないこと、ただしグーグルクロームなら問題ないことなどが報告された。また、金沢電子出版の佐藤さんより上記の内容に加えて、iPadでの動作環境に問題はなかったことなどが報告された。

e-Learning を取り入れることは、一部で既に導入されている昭和大学を含め難しさがあるものの、開始されてしまえば IT リテラシーの高い学生達は十分に有効活用できると思われる。e-Learning の活用により、教育者は時間、空間、コスト、学習状況の把握等において、学習者は時間や反復学習の機会の確保という点で“効率的”となる。しかしながら、この課題は10年後日本がむかえる4人に一人が75才以上という超2高齢社会に役立つ歯科医師の育成という“切実な問題”である。“効率化”と“切実な問題”、この2つを同時に考えようとするに、このワークショップの難しさを強く感じた。

ワーキンググループ 4

大学教職員セッション 印象記 (グループ 4)

岩手医科大学 歯学部
歯科保存学講座 歯周療法学分野 須和部 京介

大学教職員セッションにおいて各大学担当者より昨年度実施の授業について、それぞれの項目毎の報告と質疑応答が活発に行われた。

初めに、各大学担当者より授業スケジュールについて報告があり、岩手医科大学は 6 回、北海道医療大学は2回、昭和大学は 10 回実施されたとの報告があった。

次に各大学より詳細な実施報告が行われた。

岩手医科大学の授業について、事務担当内金崎さんより報告資料を元に、事前準備における部分(学生への通知について・学生および教員の登録について・コンテンツの準備について)の報告がなされた。

教員側からの報告として、城先生より「ネットワークアクセスが困難だった」、「第1回授業は昭和大学のコンテンツを使用した」等が挙げられた。また、各授業を担当した城先生、近藤先生、小林先生、熊谷先生、須和部より報告があり、「自由回答欄の回答形式改善が必要」、「授業開始前にネット接続まで行うことが一番大変だった」、「授業回数を重ねる程学生が慣れてきている感触を得られた」などが報告された。また「VP システム導入時に現在の無線 LAN 環境では不安がある」との声も上がった。

岩手医科大学の報告に対して、金沢電子出版から「ネット接続までが大変だったがその後はスムーズだった」「現在のコンテンツは ipad 等のタブレットにも対応している」との補足説明があった。また、ピコラボから「VP システムについて有線 LAN では問題なく、無線 LAN の場合事前に導入することが必要」との説明があった。

また、質問事項として「岩手医科大学では高齢者歯科の授業はあるのか？本事業の授業名は何なのか？(佐藤先生)」との質問について「現在は高齢者歯科の単独授業はなく、本事業の授業名は高齢化社会とチーム医療である(城先生)」との回答あり、「もっとわかりやすい授業名の方がよいのではないか？」とのディスカッションが行われた。また、「リソース講義の資料は配布したのか？(三島先生)」との問いに対し、「事前に資料配布した(城先生)」との回答があった。

北海道医療大学の授業について、豊下先生より報告があった。「授業は 5 年生に 2 回(1 授業 80 分)実施し、無線 LAN の環境で行った」、「2 回の授業の後にポストアンケートを行いデータ解析をおこなった」等が説明された。アンケートにおいて「動画を用いたコンテンツが評判が良かったが、パソコンに関する不満事項も多く認められた」とのことだった。実施した感想として、「パソコンや IT について事前のトレーニング必要だと感じ、パソコン操作になれるまで時間の余裕が必要と思われた」との報告がなされた。さらに越野先生より、「本年度は、本来は 3 年生で使用する予定のテキストだが、カリキュラムの関係上5年生で使用した」、「北海道医療で使用しているパソコンが、大学側でコントロール制御できるパソコンを使用しているため、VP システムがうまくいかなかった。ブラウザによる差が認められたので、システムの構築が必要と感じた」との補足があった。

ワーキンググループ 4

また、質問事項として、「授業環境として事前学習は可能か？(片岡先生)」との質問に「事前にプリント配布する形式なら可能(越野先生)」、「1回目と2回目の授業参加人数の差がある(減っている)がなぜなのか？授業が嫌だったからなのか？(菅沼先生)」との質問に「1回目は座学授業のカリキュラム内で、2回目は臨床実習中で出席強要難しく、そのため人数減少したのではないか(越野先生)」、「実施した5年生はどの授業カリキュラムの中に組み込んだのか？(佐藤先生)」との質問に「高齢者歯科の最後の授業を割り当てて行った。来年度は高齢者歯科の授業の最初の段階で組み込む予定(越野先生)」との回答が得られた。

昭和大学の授業について片岡先生より「授業のオリエンテーションを4月の最初に行った。ネット接続を無線LANにした際、学生に混乱があったため、授業では有線と無線を併用した」との報告があった。また授業をされた先生方からの感想として、「学生の持っているPCの問題が数多くあった。例をあげると、起動しない。ウイルススキャンが始まる。PCの貸出機があるとわかるとPCを持ってこない。コンテンツの画面をパワーポイントに貼り資料にする。ipadだけではなく、ipadmini、スマホ等を使用する。授業に関係のないサイトを閲覧したり、他の作業を行う。自由記載形式の部分を適当な言葉で記載する。等(弘中先生)」「昨年度まで一度ならったことを行う授業は不評だったため、自宅学習へ切り替えを検討した方が良いのではないか。授業中PCでゲームしている学生もいたため、監視する教員の増員も検討必要かもしれない。コンテンツ内の回答形式の自由記載部分を○×形式に変更したり、ポストテストの成績で課題増やす等の対策も必要なのではないか(三島先生)」「4年生で高齢者歯科があるため、授業内容が重複しないようにする必要ある(佐藤先生)」等の意見交換が行われ、次年度の授業に向けた活発なディスカッションの場となった。